

平成29年12月20日
記者発表

平成29年度和歌山県文化表彰について

平成29年度和歌山県文化表彰の受賞者が決まりましたので、お知らせします。

1 受賞者（50音順・敬称略）

(1) 文化賞（文化の向上発展に特に顕著な業績を示し、和歌山県の誇りに値すると認められる方を表彰）

氏名	年齢	住所	出身地	分野
さいとう・たかを	81	東京都	和歌山市	劇画家

(2) 文化功労賞（文化の向上発展に貢献し、その功労が特に顕著である方を表彰）

氏名	年齢	住所	出身地	分野
すぎはら いさお 杉原 治	83	和歌山市	古座川町	音楽家・合唱活動
たまい すみお 玉井 済夫	79	田辺市	田辺市	生物研究・環境保全

(3) 文化奨励賞（すぐれた文化の創造と普及活動を続け、将来一層の活躍が期待できる方を表彰）

氏名	年齢	住所	出身地	分野
かねこ たつお 金子 達雄	46	石川県	和歌山市	化学者
たにくち まさのり 谷口 賢記	39	東京都	スイス	チェリスト
こざがわこうちまつりほぞんかい 古座川河内祭保存会	35	串本町	—	伝統芸能

(年齢は平成30年1月19日現在)

2 表彰式

(1) 日時 平成30年1月19日（金）14時～

(2) 場所 和歌山県庁本館4階 正庁

3 賞

表彰状、^き徽章（メダル）並びに副賞をお贈りします。

4 沿革

昭和39年度より実施、本年度で54回目を迎えます。

5 来年度の候補者の推薦

平成30年4月下旬から6月末まで、候補者の推薦を受け付ける予定です。

（どなたでも推薦することができます。ただし自薦はできません。）

担当課	文化学術課
担当者	加藤・東山
電話	073-441-2050（内線2434）

平成29年度和歌山県文化賞

さいとう・たかを(本名 さいとう 齊藤 たかお 隆夫)

住 所 東京都中野区
出身地 和歌山県和歌山市
生年月日 昭和11年11月3日

◎ 業績及び経歴

昭和11年西和佐村(現和歌山市)に生まれ、大阪市及び福泉町(現堺市)で育つ。理髪師をしながら17歳から約2年かけて描いた「空気男爵」で昭和30年にデビュー。その後、21歳の頃に上京し、仲間と「劇画工房」を結成。まるで映画のように大人が感動する「劇画」というジャンルを定着させる。さらに昭和35年には、制作過程を映画づくりのような分業制にした「さいとう・プロダクション」を設立し、劇画界をリードする。

昭和43年11月発売のビッグコミック(小学館発行)で連載がスタートした「ゴルゴ13」は、超一流スナイパーの活躍を描く劇画で、現在まで一度も休載することなく連載が続いており、コミック界における連載最長記録を更新し続けている。その他にも「台風五郎」「デビルキング」「ベリー・ファザー」「カウント8で起て!」「無用ノ介」「バロム・1」「影狩り」「サバイバル」「雲盗り斬平」「鬼平犯科帳」「剣客商売」「仕掛人藤枝梅安」などの代表作があり、多数の作品を発表している。

特に「ゴルゴ13」は国民的人気を誇る劇画で、主人公のデューク東郷が、不可能な依頼にもあらゆる技量と知識、経験値から解決策を見出し遂行するという物語が幅広い世代から支持され続け、来年で連載50周年の節目を迎える。これを記念し、今年10月6日から11月27日まで大阪文化館・天保山において「連載50周年記念特別展 さいとう・たかを ゴルゴ13」を開催。これまで未公開であった貴重な原画、愛用のモデルガン、制作現場などが惜しげもなく登場し、訪れた鑑賞者がゴルゴの魅力に酔いしれた。

氏は数々のヒット作品を生み出してきた日本を代表する劇画家であり、平成27年には画業60年を迎えた。81歳を超えた今も多くの作品を描き続けており、劇画を通して我が国の漫画文化の向上発展に尽力してきた功績は計り知れない。

■ 現 在

- ・劇画家
- ・株式会社さいとう・プロダクション
代表取締役

◆ 主な表彰歴等

- 昭和50年 「ゴルゴ13」第21回小学館漫画賞(青年一般部門)
- 平成15年 紫綬褒章
- 平成15年 第1回理容チョコキちゃん大賞
- 平成16年 「ゴルゴ13」第50回小学館漫画賞審査委員特別賞
- 平成22年 旭日小綬章

平成29年度和歌山県文化功労賞

すぎはら いさお
杉原 治

住 所 和歌山県和歌山市
出身地 和歌山県東牟婁郡古座川町
生年月日 昭和9年3月31日

◎ 業績及び経歴

昭和9年七川村（現古座川町）に生まれる。小学生の頃よりハーモニカや蓄音機などで音楽に親しむ。昭和27年に和歌山大学学芸学部音楽専攻に入学し、声楽を学ぶ。卒業後は県立高等学校音楽科教諭、県教育委員会指導主事などを歴任し、平成6年に県立向陽高等学校校長を最後に退職する。

その間、赴任先の高等学校で合唱部を指導する。桐蔭高等学校では、音楽部及び音楽選択の生徒、教員、父母等総勢300人による大合唱とオーケストラをバックにオペラ合唱を県民文化会館大ホールにおいて原語で行い、初回から第11回まで指導する。

昭和35年からは和歌山市民合唱団の指揮者となり、バッハ、ハイドン、モーツァルト、フォーレなどの合唱曲や團伊玖磨作曲の合唱組曲「紀州路」などの大曲、邦人の合唱組曲、ふるさと和歌山の歌など数多くの合唱を指揮する。毎年開催している定期演奏会は第4回から指揮を務めており、今年11月に開催された節目の第60回定期演奏会において実に57回目を迎えた。

また、和歌山市民合唱団に加え、これまでに上神野日曜コーラス、下津女子高等学校合唱部、東亜燃料合唱団、桜映会合唱部、真砂コーラス、男声合唱団ほえーる、向陽高校コールひまわりなどの指揮を務め、平成2年からは和歌山刑務所篤志面接委員として受刑者のコーラスグループの指導にも力を入れるなど、幅広く県下にある合唱団の育成に尽力している。

なお、平成2年には毎日新聞和歌山版に昭和60年から5年間にわたり連載された「ふるさと讃歌～紀州路百曲～」において構成・コーディネーターを務めた功績が評価され、サントリー地域文化賞を受賞している。

氏の長年にわたる合唱活動を通して、音楽文化の向上と振興に尽力してきた功績は誠に多大である。

■ 現 在

- 和歌山市民合唱団指揮者
- 和歌山刑務所篤志面接委員
(合唱クラブ指導者)
- 和歌山刑務所篤志面接委員協議会副会長
- 紀州民謡全国大会審査員

◆ 主な表彰歴等

- 平成2年 サントリー地域文化賞
- 平成15年 和歌山県知事表彰
- 平成16年 和歌山刑務所長感謝状
- 平成18年 大阪矯正管区長感謝状
- 平成19年 大阪矯正管内篤志面接委員
協議会長感謝状

平成29年度和歌山県文化功労賞

たまい すみお
玉井 済夫

住 所 和歌山県田辺市
出身地 和歌山県田辺市
生年月日 昭和13年11月12日

◎ 業績及び経歴

昭和13年新宮市で生まれ、田辺市で育つ。昭和39年に東京教育大学理学部大学院修士課程修了後、高等学校の理科教諭を歴任し、平成10年に県立熊野高等学校校長を最後に退職する。34年間にわたり学校教育の充実・向上に尽力するかたわら、生物の調査・研究に取り組む。

専門は爬虫類・両生類で、紀伊半島に生息するサンショウウオの実態を解明するなど、当該分野の研究における県内第一人者である。

氏は調査・研究の過程において、価値ある自然環境を次世代へ継承することの重要性を痛感し、自然保護活動にも尽力する。天神崎の自然保全運動には、昭和49年に「天神崎の自然を大切にする会」が設立された当初から参加し、会の中心的存在として活動。天神崎の保全に奔走し、日本におけるナショナル・トラスト運動の先駆けとなって全国に新しい形での自然保護運動を根付かせた。

その活動は県内にとどまらず、全国組織である日本ナショナル・トラスト協会の専務理事としても活躍し、同協会が主催するシンポジウムや全国規模の大会などを通して、国内における自然保護思想の普及啓発にも尽力した。

また、貴重な自然の状況を把握し、保全の対象とすべきものを明らかにするために本県が発行している和歌山県レッドデータブックの作成にも加わり、長年にわたる調査・研究で得た成果を組み入れるとともに、その改定時においても爬虫類・両生類の部会長としての役割を果たした。

このような功績から、平成19年には自然公園関係功労者環境大臣表彰を、平成25年には田辺市文化賞を受賞している。長年にわたり、生物の調査・研究と自然環境の保全に尽力し、地域住民の自然に対する関心と自然探究への意欲を高めることに貢献してきた功績は誠に多大である。

■ 現 在

- ・公益財団法人天神崎の自然を大切にする会 理事(業務執行理事)
- ・環境省希少野生動植物種保存推進員
- ・和歌山県自然公園指導員
- ・田辺市文化財審議会委員
- ・和歌山県自然保護調査会会長
- ・南紀生物同好会副会長

◆ 主な表彰歴等

- | | |
|-------|-----------------|
| 昭和62年 | 和歌山県教育研究奨励賞 |
| 平成2年 | 水環境賞 |
| 平成12年 | 田辺市社会教育功労者表彰 |
| 平成17年 | 田辺市市政功労者表彰 |
| 平成19年 | 自然公園関係功労者環境大臣表彰 |
| 平成25年 | 田辺市文化賞 |

平成29年度和歌山県文化奨励賞

かねこ たつお
金子 達雄

住 所 石川県能美市
出身地 和歌山県和歌山市
生年月日 昭和46年2月16日

◎ 業績及び経歴

昭和46年和歌山市に生まれる。東京工業大学工学部有機材料工学科を卒業後、同大学院博士前期課程理工学研究科有機材料工学専攻を修了。平成9年に北海道大学へ助手として赴任のため、同大学院博士後期課程理工学研究科高分子工学専攻を中途退学。翌年、工学博士（東京工業大学）を取得する。

研究テーマは高分子化学、特に高性能バイオプラスチックに関する研究であり、最先端の研究に取り組んでいる。バイオプラスチックは、植物などの生物に由来する再生可能な有機性資源を原材料とするプラスチックで、二酸化炭素削減と廃棄物処理に有効とされているが、そのほとんどは柔軟で壊れやすいポリエステルであり、力学強度に加えて耐熱性にも問題がある。そのため、主に使い捨て分野での使用に限定されているのが現状であるが、氏らの研究において、遺伝子組換え微生物を用いて生産されるシナモン類を原料としたバイオプラスチックの合成に成功し、これを用いた世界最高強度の透明樹脂を開発した。

一連の研究成果が評価され、平成22年には「液晶構造を有する超巨大バイオ高分子の研究」で科学技術分野において顕著な研究業績を上げた40歳未満の研究者に贈られる文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞する。また、今年6月には「エキゾチックなアミノ酸を用いた高熱力学性能を持つ透明バイオプラスチックの開発」が評価され、若手中堅研究者の登竜門とも言えるドイツ・イノベーション・アワードにおいてゴットフリード・ワグネル賞を受賞している。

近年、非石油由来のプラスチックなどの樹脂が、二酸化炭素などの温室効果ガスの削減に役立つ新素材として注目を集めている。氏の研究成果は、将来的には自動車などの輸送機器の軽量化、産業廃棄物の削減など様々な応用展開につながり、今後もより一層の活躍が期待されている。

■ 現 在

- 北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科環境エネルギー領域教授

◆ 主な表彰歴等

- 平成14年 日本化学会第81春季年会「講演奨励賞」
- 平成15年 積水化学自然に学ぶものづくり研究助成プログラム「奨励賞」（平成18年にも同賞受賞）
- 平成16年 新化学発展協会研究奨励金
- 平成22年 科学技術分野の文部科学大臣表彰「若手科学者賞」
- 平成22年 北陸先端科学技術大学院大学表彰「教育研究功労表彰」
- 平成24年 日本ものづくり大賞「九州経済産業局長賞」
- 平成27年 科研費第一次審査「審査委員表彰」
- 平成27年 北陸先端科学技術大学院大学学長賞「科研費審査員賞」
- 平成27年 北陸先端科学技術大学院大学学長賞「学生募集活動功労賞」
- 平成28年 “Best presentation” at the 251st ACS National Meeting
- 平成28年 “Distinguished award” at IUPAC-NMS2016
- 平成29年 “Gottfried Wagener prize” German Innovation Award

平成29年度和歌山県文化奨励賞

たにぐち まさのり
谷口 賢記

住 所 東京都世田谷区
出身地 スイス・チューリッヒ
生年月日 昭和53年2月2日

◎ 業績及び経歴

昭和53年スイス・チューリッヒに生まれる。4歳にてピアノ、18歳にてチェロを始める。京都大学理学部を卒業後、同大学院理学研究科にて生物学を専攻し、修士課程を修了。京都大学交響楽団では首席チェロ奏者、学生指揮者としても活躍する。

平成16年にボストン音楽院に留学し、同院よりチェロ演奏において音楽修士号を取得、さらに全額奨学生としてディプロマを取得する。平成17年には「Three Colors Trio」にてCMFoNE第1回国際室内楽コンクールで第1位に入賞、カーネギーホールにて受賞者演奏を行う。平成19年から21年にはボストン・フィルハーモニー管弦楽団及びアトランティック交響楽団にも在籍し、研鑽を重ねる。

平成21年に拠点を東京に移し、室内楽を中心とした多彩な演奏活動を展開する。平成24年にはボストン音楽院で共に学んだ仲間と「スタイナー・トリオ」（現在は「スタイナー」として活動）を結成し、これまで澤和樹氏（現東京藝術大学学長・和歌山市出身）をはじめ数々の著名な演奏家と共演しながら計5回のジャパン・ツアーを行い、注目を集めている。

現在は、フィギュア・アート、ダンス、生け花、能、邦楽など様々な分野の芸術とのコラボレーションにも力を入れるとともに、後進の指導にも尽力している。また、東京藝術大学学長主宰の芸術と科学の融合に向けたプロジェクト「Arts Meet Science」のコーディネーターを務めるなど、その活動はチェリストを基軸としながらも多彩な文化活動に貢献しており、今後もより一層の活躍が期待されている。

氏は父親の実家がある和歌山を頻りに訪れていたことから、和歌山に対する愛着が強く、毎年県内各地で様々な演奏会に出演している。特にスタイナー公式ツアーでは毎回、和歌山県立図書館メディア・アート・ホールでコンサートを行うなど、氏の故郷ともいえる和歌山との文化交流に努めている。

■現在

- ・チェリスト
- ・東京藝術大学AMSプロジェクト
コーディネーター
- ・スタイナー主宰
- ・ラインハイト室内楽アカデミー講師
- ・一般社団法人全日本ピアノ指導者協会
正会員
- ・一般社団法人全日本ピアノ指導者協会
ジャスミンINAGIステーション代表
- ・かまくらシンフォニエッタトレーナー
- ・福島青年管弦楽団トレーナー

◆主な表彰歴等

- | | |
|-------|----------------------------|
| 平成17年 | CMFoNE第1回国際室内楽コン
クール第1位 |
| 平成19年 | ボストン音楽院栄冠弦楽四重
奏団として表彰 |
| 平成20年 | CMFoNE第4回国際室内楽コン
クール第2位 |

平成29年度和歌山県文化奨励賞

こざがわこうちまつりほぞんかい 古座川河内祭保存会

創 立 昭和57年

代 表 杉本 喜秋

所 在 地 和歌山県東牟婁郡串本町

◎ 業績及び経歴

河内祭は清流として知られる古座川の川中にある「河内島（こおったま）」を御神体として祭祀を行う熊野の自然崇拝を基調とする祭礼で、古座川流域の串本町古座・古田、古座川町高池・宇津木・月の瀬の5地区が合同で祭りをを行う。

このうち古座からは鯨舟を祭礼船に仕立てた「御舟（みふね）」が上中下3艘出て、宵宮の入船式で古座神社から「河内大明神」の神額を受け、川を遡って上流の河内島に向かう。その夜、御舟は1艘ずつ河内島をめぐり、宿老が御舟謡を朗々と歌うなか夜籠り神事を行う。また、高池下部の獅子舞伝馬が十二竿頭を掲げ、笛太鼓で囃しながら古座川を遡り、古田の川原で獅子舞を奉納する。

翌日の本祭は、古座神社の神職と神のお使いである「ショウロウ」に選ばれた童女1名・童男2名を乗せた当舟を先頭に、櫂伝馬3艘、獅子舞伝馬、屋形船が河内島のある上流を目指す。古田の川原に到着すると、河内島に御幣を捧げ神事を執り行い、その後に御舟が島を3周するほか、各地区の獅子舞の奉納や中学生による櫂伝馬競漕が行われ、祭りのクライマックスを迎える。

この河内祭は昭和40年に和歌山県指定無形民俗文化財となり、平成11年には「河内祭の御舟行事」として国の重要無形民俗文化財に指定された。その保持団体である古座川河内祭保存会の活動歴は35年を超え、現在では毎年7月第4土曜日と日曜日に行われている河内祭の維持保存に努めている。

また、平成28年には熊野灘の捕鯨文化に関するストーリー「鯨とともに生きる」が日本遺産に認定され、その中核となる構成文化財として再注目されている。伝統芸能の継承が全国的な課題となる中、長年にわたりその維持保存に努め、本県の文化振興に果たしてきた古座川河内祭保存会の功績は大きく、今後もその活動に大きな期待が寄せられている。

◆主な表彰歴等

昭和40年 和歌山県指定無形民俗文化財

平成11年 国指定重要無形民俗文化財

【文化表彰各受賞者からの受賞に際するコメント】

《文化賞 さいとう・たかを 様》

私は母方のご縁があり和歌山にて生を受けました。しかし物心がつく前に転居してしまい残念ながら和歌山での思い出は残っておりません。生まれただけの私みたいな者に賞をいただけるなんて、ただただ恐縮しております。『和歌山生まれ』と公表していても今ひとつ実感が無かったのですが、今回お話を頂き、生まれ故郷が物凄く身近に感じました。本当にありがとうございました。

《文化功労賞 杉原 治 様》

この度は和歌山県文化功労賞を賜り、心から感謝申し上げます。

教員のかたわら、約60年間和歌山市民合唱団をはじめいくつかの合唱団の指導・指揮に努めて参りました。合唱団活動は団員・ピアニスト、また家族の皆様方のご協力がなければ成り立ちません。そして何よりも聴きに來て下さるお客様がなければなりません。今までに私の指揮するコンサートに十万人を超える方々が聴きに來て下さいました。これら多くの方々の支えのもとに、私の音楽活動が続けられてきたものと思ひ、ただ感謝のみです。

これからもこの賞を励みに研鑽を重ね、合唱活動を中心にして和歌山の音楽文化の発展に微力ながらお役に立てればと念じながら活動を続けていきたいと存じています。

《文化功労賞 玉井 済夫 様》

この度は、和歌山県文化功労賞をいただき、まことにありがたく光榮に存じます。私は高等学校で理科（生物）を教えながら、両生類・爬虫類を中心に県内の自然環境の調査研究を行い、また、多くの仲間とともに各種の生物調査を続けてきました。そして、田辺湾・天神崎の自然を大切にする活動にも加わり、その自然を調査しながら環境教育にも力を入れてきました。これらの活動が評価されての受賞は、身の引き締まる思いであり、深く感謝申し上げます。

《文化奨励賞 金子 達雄 様》

この度は図らずもこの素晴らしい賞を頂戴することとなり心は驚きと歓喜に満ちております。推薦者および関係者の方々に心より御礼申し上げます。小生は材料化学者の立場から環境保全にどのような形で貢献出来るのかを考え抜いた結果、この高性能植物性プラスチックの研究を行うことに致しました。社会実装に向けた前進のため、本賞を通じて和歌山のハイレベルな化学系企業の方々にサポートして頂ければ幸甚です。これにより、子供たちのために未来の地球を美しく安全に保ってあげられればと思います。最後に、本研究に携わって下さりました共同研究者の先生方、学生の皆さん、支えて頂いた妻と家族に心より感謝の意を表します。どうも有難うございました。

《文化奨励賞 谷口 賢記 様》

この度、和歌山県文化奨励賞という身に余る賞をいただき、大変光栄に存じますとともに身の引き締まる思いです。幼少期から県内の祖父母の家を頻りに訪れてきた私にとりまして、和歌山はかけがえのない故郷です。そんな和歌山にて、青少年を含めた沢山の皆様に様々な音楽をお届けしてきたことは、心からの喜びでした。今回の受賞を励みに、今後とも和歌山県の文化の発展に微力ながら貢献していきたいと存じております。

《文化奨励賞 古座川河内祭保存会 様》

この度は、和歌山県文化奨励賞を賜り、厚くお礼申し上げます。

古座川河内祭保存会は、昭和57年に古座区役員及び七団体代表者で創立され、河内祭の維持保存に努めてきました。

また、平成28年に五地区・保存会各代表でこれからの河内祭の維持保存について話し合った結果、これまでの7月24日・25日開催から、現在の7月第四土・日曜日開催へと変更し、その伝承に努めていくこととなりました。

この度の受賞を励みに、今後も各団体で話し合い、河内祭を長く維持保存していきたいと思っております。ありがとうございました。

平成29年度和歌山県文化表彰受賞者

【文化賞】

【文化功勞賞】

【文化奨励賞】

, ù] A&•- Ñ